

4 A病院透析室における献腎移植登録者の腎移植に対する意識調査

長野赤十字病院 透析室

坂西佐智世 畔上信子 黒岩晃代 村山美香

Key word: 献腎移植 意識調査

I はじめに

A病院透析室先行研究において、腎移植を受けた患者は、腎移植を受けられる喜びの思いとは反対に、日本臓器移植ネットワークから電話が来たときの戸惑い、他人の腎臓を貰うことに対してのプレッシャー、拒絶反応への不安など多くの思いがあることを知った。

A病院の透析室では献腎移植希望登録者(以下登録者とする)は7名いるが、献腎移植登録(以下登録とする)の更新時期やメディアで話題になったときに腎移植について話す程度で、看護師による積極的な情報提供は行っていない。患者は何を思い登録の更新を行っているのか、突然、移植ネットワークから電話が来ててもすぐに返答できるのか、腎移植に関する家族の理解はあるのかなど疑問が出た。

そこで、A病院透析室の登録者はどんな気持ちで腎移植を待っているのか、登録者の腎移植に対する意識を明らかにし、今後の看護に生かしたいと考え本研究に取り組んだ。

II 研究目的

A病院の血液透析患者で登録をしている7名に対して、腎移植に対する意識を明らかにする。

III 用語の定義

意識:登録時、更新時及び待機中の気持ちと、腎移植について知りたい項目

IV 研究方法

1. 対象及び調査方法

1) 対象:A病院の血液透析患者で登録をしている7名

2) 対象者7名の概要

年齢:45~69歳

性別:男3名 女4名

透析歴:3~21年

待機年数:3~19年

職業:会社員2名、主婦4名、無職1名

3) 方法:登録時・更新時及び待機中の気持ち、腎移植の知識等について、選択項目と自由記載での質問紙を独自に作成し、質問紙調査を行った。

4) 研究期間

平成23年3月~平成23年10月

2. 倫理的配慮

アンケートは無記名とした。対象者に対し、本研究の目的と意義、研究の参加・協力の自由意思、個人情報やプライバシーの配慮を明記し、回収をもって同意を得たものとした。

V 結果

1.登録時

1) 登録を決断した時の気持ち

「説明を聞いてすぐに登録しようと思った」は1名、「他人に勧められて登録しておこうと思いつめた」は2名、「その他」は4名であった。

自由記載の内容は、「可能性があるならばという気持ち」「全員すると思っていた」「家族が心配してくれるので登録した」「すぐには無理だと思ったが、将来移植できたらいいな」であった。

2) 登録した理由

登録した理由は、「透析を止められる」「食事や水分の制限をしなくてよい」が6名、「活動範囲が広がる」「生活が改善する」などが4名であった。(図1参照)

別刷請求先:坂西 佐智世 〒380-8582

長野市若里5丁目22番1号 長野赤十字病院透析室

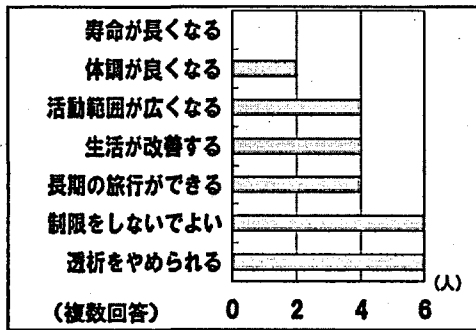


図1 登録した理由

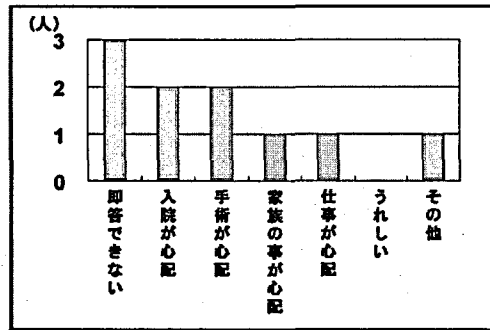


図2 突然腎移植の電話がかかってきたらどのような気持か

2.待機中

1) 日常生活の中で、腎移植についてどの程度考えているか

「毎日、腎移植の事を考えている」人はいなかった。「時々、腎移植の事を考える」は2名、「日頃、腎移植のことは忘れてる」は5名だった。

2) どんな気持ちで腎移植を待っているか

「最初は、連絡が来るのを、心配しながら待っていましたが、その後は半ばあきらめ気味で最近では、更新するかどうかが悩んでいます。」「宝くじ的な感覚」「今は、透析でも良いと思っても、先のことはわからない」などの記述があった。

3) 突然腎移植の電話がかかってきたらどのような気持ちか

突然、腎移植の電話がかかってきたら、半数が即答できないと答えていた。うれしいと思う人はいなかった。(図2) 自由記載では、「心の準備ができないかもしれません」「年に1回の更新の時以外に考えたことはありません」「登録して10年以上経てば自分のこととして捉えられない」などの記述があった。

4) いつでも腎移植ができるように準備ができているか

「体調を整えている人」は3名、「体調を整えていない人」は4名だった。体調を整えていない理由は「特に腎移植のための準備は日頃あまり考えていない。」「移植できると思っていない」だった。全員が家族の理解があった。(図3)

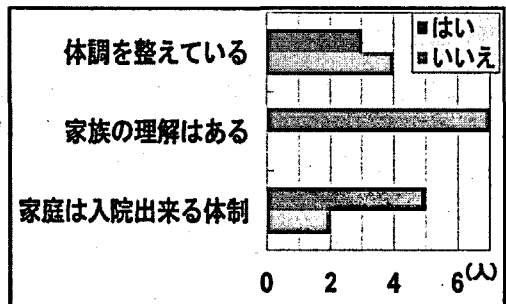


図3 いつでも腎移植ができるように準備ができているか

3.更新時

「更新したい人」は1名、「悩んでいるが更新している人」は6名、「更新を止めたい人」はいなかった。悩んでいる理由は「長い間、更新しているので、止めるのがもったいない」「年齢的なことや、免疫抑制剤のことなど聞くと、止めようかとも思い、悩んでいます」「家族にすすめられて。」「もういいかなと思いつつ、もう1年と思って、更新している」であった。

4.腎移植について知りたい項目

腎移植について知りたい内容は「体調の変化」

「移植腎の寿命」「移植後の食生活」が多い項目であった。(図4)

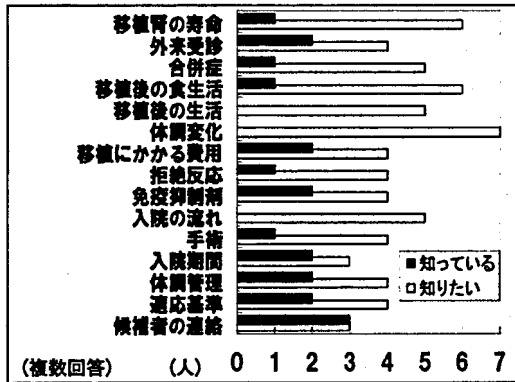


図4 腎移植について知りたい項目

<具体的に知りたい内容>

- ・事前には基礎的なことだけざっと知っていればよい。リスクについて詳しく知りたい。
- ・移植後膀胱とか尿道の筋力など正常に戻るの心配。健康な人でも尿漏れ等心配する年齢なので。免疫抑制剤の副作用を詳しく知りたい。生ものを食べられなくなるなど、食事に相当規制があるのでしょうか。知っていることも不確実で断片的なことばかりなのでもう一度全て教えて頂きたいと思います。
- ・移植については殆ど分からないので全部。
- ・勉強会の機会があれば知りたい。
- ・移植後は今と比べ体調がどの様に変化し、どの様に管理していくか知りたいです。生活は普通(一般の人)の食事になるのでしょうか。

VI 考察

1.登録時

登録者は、将来的に腎移植ができればいいという期待を抱いて登録していた。これは、他の臓器不全とは異なり、腎不全患者は透析による生命維持が可能であるためと考える。しかし、週3回の透析は、時間的拘束、食事・水分等の制限を強いられる事となり、負担を感じていた。その現実を変えたいという気持ちから、移植登録を選んだ理由の一つとなっていると考える。

2.待機中

「日頃、腎移植のことは忘れてる」と答えた人が多かった。これは、透析による制限があり不便さは感じているが、透析が日常生活の一部とな

っているためと考えられる。待機年数が長くあきらめの声もあった。日本における献腎移植の待機年数は約10~20年と言われているように、とても幅があり、先が見えないためと考える。

登録者に腎移植の電話がかかってきたら、すぐに即答すると予想していたが、「うれしい」という回答はなく「即答できない」という人が多く意外な結果であった。「登録して10年も経てば自分の事として捉えられない」と記載にもあるように、移植が実現するものとして実感が得られていない。また「うれしい」と素直に答えられない複雑な心境があるのではないかと考える。

移植準備のために「体調を整えている」と答えた人が3名いる反面、「体調を整えていない人」は4名いた。「腎移植のための準備は日頃考えていない」「移植できると思っていない」等の記載もあり、移植のために体調管理が必要であると考えられない登録者の心理がある。長坂らは「献腎移植希望登録中の患者さんは腎移植の連絡が急にきても手術が受けられるように、ご自分の体調管理を常に意識していることが大事である。」²⁾と述べている。看護師は登録者が体調を整えられるように、感染予防や服薬・水分・塩分・食事の管理等が継続してできているかなど日頃から意識できるように働きかけることが必要である。

「家族の理解はある」と答えた登録者は全員で、登録時の理由にも「家族が心配してくれるので登録した」という記載から、献腎移植の登録、継続には、家族の意見も反映されていると考える。

3.更新時

更新を止めたいという人はいなかったが、6名が更新を悩んでいた。「長い間、更新しているので止めるのがもったいない」「もういいかなと思いつつ、もう一年と思って、更新している」という記載から、期待と諦めの中で揺れ動く思いがあった。また、「家族にすすめられて」という記載から、登録者は家族と更新を相談し、家族に支え励まされて、悩みながらも更新していると考える。

4.腎移植について知りたい項目

腎移植について知りたい項目が多かった。しかし、実際知っているが項目は少なく、関心はあるが、知識の不足があると考えられる。特に腎移植後の生活や体調の変化について関心が高かった。これは、移植したことで透析の生活より楽になるのか、食事や水分の制限が楽になるのかなど、移植後の生活がどのように変化するのかイメージができていないためと考える。いままで看護師が腎移植に関する情報提供を積極的に行っていなかったためと考える。腎移植についての基本的な知識から最新情報までを、毎年登録者へ伝え、登録者の疑問に答えられる対応が求められている。

Ⅶ 結論

1. 登録者は透析による時間的拘束、食事・水分等の制限が負担となり、その現実を変えたいという気持ちから移植登録を行っていた。
2. 登録者は待機年数が長いとため、移植を現実問題として捉えられない現状がある。
3. 登録者は毎年更新することを悩み、家族に支えられて更新していた。
4. 登録者は腎移植の知識は少ないが、関心は高い。

Ⅷ おわりに

今回は、当院の登録者7名の意見であったが、悩みながら登録を更新していることが分かった。そこには、家族の支えがあった。透析室スタッフは腎移植を待ち続ける辛さを理解し、気持ちを受け止める心のケアが必要である。今後はレシピエント移植コーディネーターと協力し、登録者への情報提供及びスタッフ教育をすすめていきたい。

引用文献

- 1) 長坂隆治: 献腎移植希望登録後の生活,腎移植, P 44-46,2011

参考文献

- 1) 佐藤久光,山上孝子,日野佐智子: 透析現場で知っておきたい腎移植,透析ケア,vol.16.no.12 (1299)3,2010
- 2) 植田恵利子: 待機期間中の思いをつなぐサポ